

Sofia Rei & Jorge Roeder

[プロフィール]

Sofía Rei ソフィア・レイ (vo)



アルゼンチン出身のボーカリスト、ソングライター、プロデューサー

Berklee のラテン系教育者として 2011 年から声楽科とソングライティング科のさまざまなプログラムでパークリー音楽大学の Global Initiatives と協力している。

また、ニューイングランド音楽院とニューヨークジャズアカデミーで教鞭をとり、ボーカルの即興演奏やスタイルトレーニングワークショップを国際的に教えています。

レイはブエノスアイレスで、土木技師の父と哲学研究者で教授の母の元に生まれる。

4 歳からボーカルグループや学校の合唱団で歌い始め 9 歳の時にコロン劇場児童合唱団のメンバーとしてプロのキャリアをスタートさせ、後に国立セルバンテス劇場のアルゼンチン国立児童合唱団に入団する。その後、ブエノスアイレス国立大学の高校に入学し国立音楽院の声楽専攻し大学ではマルタ・ブランコ教授にオペラを学ぶ。

1997 年、マエストロ・ネストル・ザドフの指揮の下、アルゼンチン国立青少年合唱団 (CONAJO) にコントラルトとして参加する。しかし 19 歳の時に初めてジャズに触れてからボーカルの即興演奏について興味を持ち学び始める。若い作曲家と頻繁に共演し、彼らの新作を初演する際に自分の声を活用する方法を模索し即興音楽とジャズにどっぷりと浸かったレイは、勉強を続けるために米国に行くことを決意し、2001 年に奨学金を得てボストンのニューイングランド音楽院に入学しジャズと即興演奏を学ぶ。そこで彼女は Charlie Banacos, Danilo Perez, Dominique Eade, Steve Lacy, Bob Moses, Jerry Bergonzi が含まれている。

教師の一人である George Russell に励まされて、彼女は自分の音楽を書き始める。

在学中にベーシストのホルヘ・ローダーと出会い、頻繁にコラボレーションしている。

2003 年にジャズと即興の修士号を取得してニューイングランド音楽院を卒業する。

同年、レイ、ローダー、"Coqui" Perez-Albela (ds) は、Chabuca Granda, Felipe Pinglo and Nicomedes Santa Cruz. 等のペルーの作曲家の音楽を探求するため「アヴァントリオ」を結成し、その後、アルゼンチン音楽や南米の民族音楽を取り入れた「the Sofia Koutsovitis Group」を結成。

このオクテットには、「アヴァントリオ」の他 Leo Genovese (piano), Jason Palmer (trumpet), Adam Schneit (alto sax), Dan Blake (soprano and tenor sax), Richie Barshay (drums) が参加している。

2005 年に活動の拠点をニューヨークに移す。2006 年には「Maria Schneider Jazz Orchestra.」と国際ツアーを行う。

また、オクテットで録音された彼女のデビューアルバム『Ojalá』も同年にリリースされる。彼女自身の作曲とアルゼンチン、ブラジル、キューバの作曲家による曲のアレンジで構成されたこのアルバムは、ジャズ・ジャーナリスト協会によってその年のトップ 10 レコードの 1 つに選ばれる。

『オール・アバウト・ジャズ』はこの曲を「折衷的でエキサイティング」と評し「ラテンジャズとラテンアメリカ音楽全般の最近の傾向を体現しており「Sofia Koutsovitis」がなぜ新しい音楽界で最も多彩で需要の高い歌手の一人であるかを証明している」と書いた。

2008 年、カーネギーホールで John Zorn の委嘱作品であるインスタント・オペラで Bobby McFerrin と共演した。

また、グラミー賞にノミネートされたアルバム『Aurea』で Geoff Keezer とコラボする。

2009 年、セカンドアルバム『Sube Azul』をリリース。『Sube Azul』に収録された 12 曲のうち 8 曲を書き、ローダーとアルバムを共同プロデュースした。

オールミュージックは次のように書いている。「コウツォヴィティスは、ある種の南米ボヘミアンなオーラを取り入れており、ヒップな文化的ランドマーク、愛と後悔の感情、拡張されたカラーパレットを使用して、彼女のミュージックに近づく人たちに魔法の呪文を織り交ぜています ... 個人として、彼女を前任者と比較するのは難しいが、彼女の喜びと情熱はフローラ・プリム、セリア・クルーズ、あるいはアビー・リンカーンに匹敵するかもしれない。」このアルバムは同年のインディペンデント・ミュージック・アワードでベスト・ワールド・ビート・アルバム賞を受賞し、レイはラテン・ジャズ・コーナーによって同年のベスト・ラテン・ジャズ・ボーカリストに選ばれた。

同年後半、メキシコのアレス市で起きた女性と少女の未解決殺人事件と失踪事件にインスピレーションを得た一連の歌曲、Lova Zhurbin の「Niña Dance」にボーカルを提供する。カーネギーホール コーポレーションの委託によりこの作品の初演は Zankel Hall で行われ彼女はジャズ ギャラリーの「New Voices」コンサート シリーズの一環としてこの作品を初演するフィーチャリング ボーカリストとして選ばれる。

2012 年、3 枚目のアルバム『De Tierra y Oro』をリリース。レイ、ローダー、ファブ・デュボンの共同プロデュースにより、エレキギター、ループ、ドラムに加え、アンデスのチャランゴ、パラグアイのハーブ、コロンビアのマリンバ、コースト、アルゼンチンのボンボ、ペルーのカホンを使用して録音し「インディペンデント・ミュージック・アワード」でベスト・ワールド・ビート・アルバムに選ばれた。

レイは、本作を「一連の『哲学的放浪』、つまり幅広い南米の民間伝承の影響と、爽やかでモダンなサウンドを取り入れた曲」と表現した。

彼女はヨーロッパ、南北アメリカをツアーし、カーネギーホール、ケネディセンター (DC)、SF ジャズ (サンフランシスコ)、国際ジャズ アンリマ フェスティバル (ペルー)、テアトロ コルサブシディオ (ボゴタ)、ウィーン・コンツェルトハウス (ウィーン)、シテ・デ・ラ・ミュージック (パリ)、ノースシー・ジャズ (オランダ)、トム・デ・フェスタ (ポルトガル)、ブエノスアイレス国際ジャズフェスティバル (アルゼンチン) に出演している。

Sofía Rei & Jorge Roeder

[プロフィール]

Jorge Roeder ホルヘ・ローダー(b)



ペルーのリマ出身。

幼い頃に母の薦めでギターレッスンを始め音楽を続ける。

高校入学後、彼の学校でペルー初の音楽プログラムが導入されるとベースを希望したが選考でチェロに決まりそこから本格的にクラシックチェロのレッスンを受け、16歳の時にはロシアの名門「N・A・リムスキー=コルサコフ記念サンクトペテルブルク国立音楽院」に数ヶ月間招かれる。

だが学校の外では、地元のロックバンドで古いギターのフレットを引きはがして、間に合わせのエレクトリックベースを作って演奏していた。仲間が結成したビッグバンドに参加した経験から、ベースを弾きジャズを演奏したいと強く思うようになった。

高校3年生の時にチェロからコントラバスに転向し、2001年に”リマ・フィルハーモニー管弦楽団”とオペラ・オーケストラの副首席ベーシストに任命されが、ジャズをもっと勉強したいと思い、2002年に奨学金を得てボストンの「ニューイングランド音楽院」に入学する。

学校では、Danilo Pérez, Jerry Bergonzi, Bob Moses, Cecil McBee, や同じペルー人の Oscar Stagnaro. 等のジャズの偉人たちに師事した。

在学中、ピアニストのダン・テプファー、サクソ奏者のダン・ブレイク、ハービー・ハンコックとツアーしていたドラマーのリッチー・パーシェイなどの学生仲間たちと重要なつながりを築いた。

彼はまた、ジャズ学科の唯一のラテンアメリカ人学生であるピアニストのガブリエル・ゲレーロとボーカリストのソフィア・レイとのコラボレーションを開始しオリジナルのジャズはもちろん伝統的な南米音楽を手がける Sofia Rei グループの創設メンバーとして芸術監督を担っている。

2007年、「International Society Of Bassists Jazz コンテスト」で最優秀賞を受賞し、拠点をニューヨークに移す。ニューヨークに移ってすぐに大きな二つの出会いが待っていた。

一つは、西海岸に行った時に当時17歳の天才ギター奏者ジュリアン・レイジと出会った事、二人はすぐに意気投合し、ジュリアン・レイジ・グループに参加し最初のレコーディングであるデビュー作『サウンディング・ポイント』で2009年のグラミー賞「ベスト・コンテンポラリー・ジャズ・アルバム」にノミネートされ、それ以来彼らはデュオやトリオで活動している。

もう一つは、たまたまペルーで演奏していた時に出会ったピアニストのシャイ・マエストロとニューヨークに戻ってから再会した事だ。名手アヴィシャイ・コーエン・グループから離れたシャイ・マエストロは、自己のトリオに彼を招いた。その演奏はドラマーのオフリ・ネヘミヤとピアニストが交互に軽妙で爽快な演奏をする中で、ローダーは驚異的な運動能力と深い感情の両方を伴った演奏をしている。

また、彼のエレクトリックな演奏は、ライアン・カベリ (tb) の「カタルシス」でも魂を揺さぶる効果を奏でている。「カタルシス」は、激動の政治時代にインスピレーションを与える活力で応えるために結成されたバンドです。

他に、彼は多作なサクソ奏者ジョン・ゾーンの膨大なマサダ・ソングブックを調査する新しいプロジェクトにも参加している。

ローダーは、ジュリアン・レイジ、ソフィア・レイ、シャイ・マエストロ、ライアン・カベリと長年にわたるパートナーシップを築き、ゲイリー・バートン、ネルス・クライン、ケニー・ワーナー、ジョン・ゾーンなどの革新者たちとステージを共有してきました。

ホルヘ・ローダーは今日のジャズ界で最も多才で表現力豊かなベーシストの一人として知られています。

シンフォニックな想像力とフォークミュージシャンの親密な抒情性、生々しいロッカーの攻撃的なエネルギーとアフリカ系ペルー人のルーツの軽快なリズムミカルな感性を組み合わせ、確固たる基盤の中で幅広い影響力を伝えています。

。